

第11回連続講座『いのち』を考える ～体験から生まれた叡智と生き方～ 講師プロフィール（敬称略）

日程	講師	プロフィール
4/28 (木)	<p>養老 孟司（ようろう たけし）</p> <p>東京大学名誉教授</p> <p>【演題】 死から見えてくるもの</p>	<p>1937年神奈川県鎌倉市生まれ。1962年に東京大学医学部を卒業し、1年のインターンを経て、解剖学教室に入る。1967年に医学博士号取得。1981年に東京大学医学部教授に就任し、東京大学総合資料館長、東京大学出版会理事長を兼任。1995年に東京大学を退官。1996年に北里大学教授に就任(2003年退職)。1998年より東京大学名誉教授。『からだの見方』（筑摩書房;サントリー学芸賞）、『バカの壁』（新潮社;毎日出版文化賞）など著書多数。</p>
5/12 (木)	<p>鳥越 俊太郎（とりごえ しゅんたろう）</p> <p>ニュースの職人</p> <p>【演題】 がんと向き合って</p>	<p>1940年福岡県吉井町(現うきは市)生まれ。京都大学文学部卒業後、毎日新聞社に入社。新潟支局、大阪社会部、東京社会部、「サンデー毎日」編集部に所属し、外信部(テヘラン特派員)を経て1988年より「サンデー毎日」編集長。1989年に退職して以降、「ザ・スクープ」「サンデージャングル」でキャスターを務めるなど、テレビメディアに活動の場を移す。2005年にステージ4の大腸がんが発覚、肺や肝臓への転移を経て4度の手術を行う。現在もさまざまなメディアで「ニュースの職人」として活躍中。『君は人生を戦い抜く覚悟ができていますか?』（日本実業出版社）、『がん患者』（講談社）など著書多数。</p>
5/19 (木)	<p>藤田 和子（ふじた かずこ）</p> <p>若年性アルツハイマー病の本人、NPO法人若年性認知症問題にとりくむ会・クローバー副理事長、日本認知症ワーキンググループ共同代表</p> <p>【演題】 認知症のわたしたちが、考えていること、いっしょにつくっていききたいこと</p>	<p>1961年鳥取市生まれ。市内の総合病院に7年間勤務し、認知症の義母を9年間介護の後、市内の個人病院で8年間勤務する。2007年6月に若年性アルツハイマー病と診断される。2010年11月に「クローバー」を立ち上げる。2011～13年、鳥取市差別のない人権尊重の社会づくり協議会委員。2014年10月に日本認知症ワーキンググループ設立に参画。同月、厚生労働大臣へ要望書（政策提言書）を提出。11月、認知症サミット日本後継イベント（国際会議）においてスピーチを行う。2015年1月、「新オレンジプラン」策定に伴い安倍首相と面談。</p>
5/26 (木)	<p>大前 光市（おおまえ こういち）</p> <p>プロダンサー</p> <p>【演題】 “無様”でも 生きることは美しい</p>	<p>1979年岐阜県生まれ。大阪芸術大学でバレエなどを学ぶ。プロのダンサーとして活躍していた23歳の時、事故で左足を失うも義足のダンサーとして復帰。踊りに合わせて様々な形状の義足も開発し、美しいだけでなく、義足の体でしかできない唯一無二のダンスを作り上げる。現在はプロとして、年間20公演をこなしている。</p>
6/2 (木)	<p>広野 ゆい（ひろの ゆい）</p> <p>NPO法人DDAC（発達障害をもつ大人の会）代表</p> <p>【演題】 発達障害という個性を生きる</p>	<p>子ども時代から、遅刻、片づけができない、周りに合わせられないなどの特性があり、忘れ物の女王、遅刻の帝王などと呼ばれながら学生時代を過ごす。専業主婦であった28歳でうつ病、31歳の時にADHDと診断される。2002年に大人の発達障害のグループ「関西ほっとサロン」、2008年4月に「発達障害をもつ大人の会」を立ち上げる。現在は、発達障害当事者の立場でキャリアカウンセリング、教師や専門職向けの講演、企業向けのセミナー等も行っている。ICDSキャリアコンサルタント。ロゴセラピスト。</p>
6/9 (木)	<p>倉田 めば（くらた めば）</p> <p>薬物依存リハビリテーション・センター 大阪 ダルクディレクター</p> <p>【演題】 私が手渡したいもの</p>	<p>大阪ダルクディレクター。Freedom代表。1993年にフォトグラファーの仕事を辞め、薬物依存回復施設「大阪ダルク」を設立。2002年に薬物依存症からの回復を支援する市民団体「Freedom」を多くの賛同者とともに設立。ピア・ドラッグ・カウンセラーとして現在に至る。神戸学院大学学際教育機構客員教授。精神保健福祉士。</p>